

海業で漁業・漁村を元気に – 生業再生から持続可能な地域づくりへ –

2026年1月22日
玉川大学 観光学部
谷脇 茂樹

本日の内容

1. はじめに
2. 日本の観光の現状
3. 海業を通して持続可能な地域づくりへ
4. まずはできることから
5. 最後に

日本の課題

- ・人口急減と超高齢化の加速化
- ・地方疲弊の深刻化



地方創生 (日本の持続可能性)

漁村地域の課題

- ・海洋環境の変化等による漁獲量の減少
- ・漁業就業者数の減少、高齢化の進展
- ・関連産業（水産加工業者、仲卸業者等）の衰退
- ・消費者の魚離れ



海業 (漁村地域の持続可能性)

漁業 (漁村地域の持続可能性)

未利用の地域資源を活かす

(地域ならではの水産物・漁業文化・自然・景観など)

観光客が**増加**し,地域に**賑わい**が生まれ
特産品の**需要**が**増加**し,**所得**や**雇用**を創出

本日の内容

1. はじめに
- 2. 日本の観光の現状**
3. 海業を通して持続可能な地域づくりへ
4. まずはできることから
5. 最後に

国内旅行消費額の推移(単位:兆円)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
国内宿泊	15.8	16.0	16.1	15.8	17.2	7.7	7.0	13.7	17.8	20.3
国内日帰り	4.6	4.9	5.0	4.7	4.8	2.2	2.2	3.4	4.1	4.8
海外旅行(国内分)	1.0	1.1	1.2	1.1	1.2	0.3	0.1	0.6	0.9	1.0
訪日外国人旅行	3.5	3.7	4.4	4.5	4.8	0.7	0.1	0.9	5.3	8.1
合計	24.8	25.8	26.7	26.1	27.9	11.0	9.4	18.7	28.1	34.3

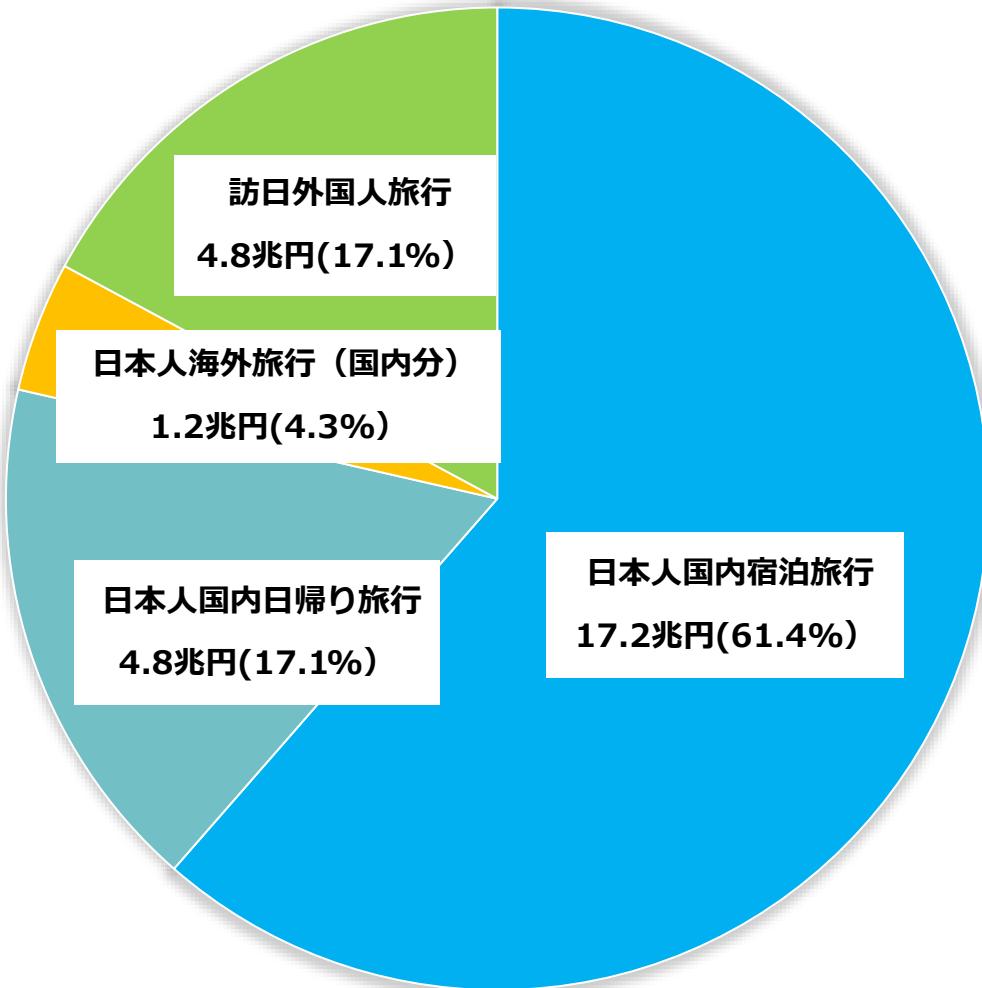
注1: 2021年の「日本人海外旅行(国内分)」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外旅行に関する回答数が少なかったため、試算値。

注2: 2021年の「訪日外国人旅行」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、1-3月期、4-6月期、7-9月期の調査が中止となつたため、10-12月期の全国調査の結果等を用いた試算値。

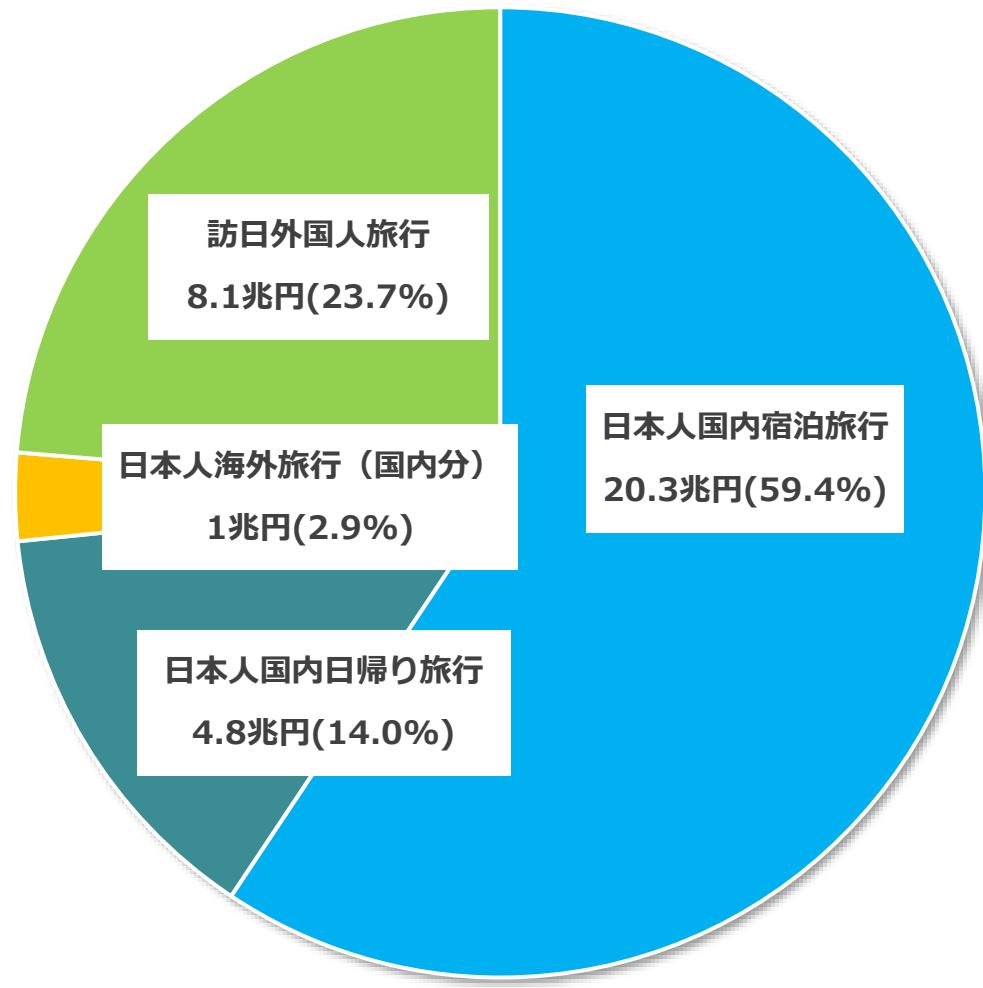
注3: 2020年の「訪日外国人旅行」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、4-6月期、7-9月期、10-12月期の調査が中止となつたため、1-3月期の全国調査の結果を用いた試算値。

国内旅行消費額

インバウンドの効果 (割合) が年々強まっている

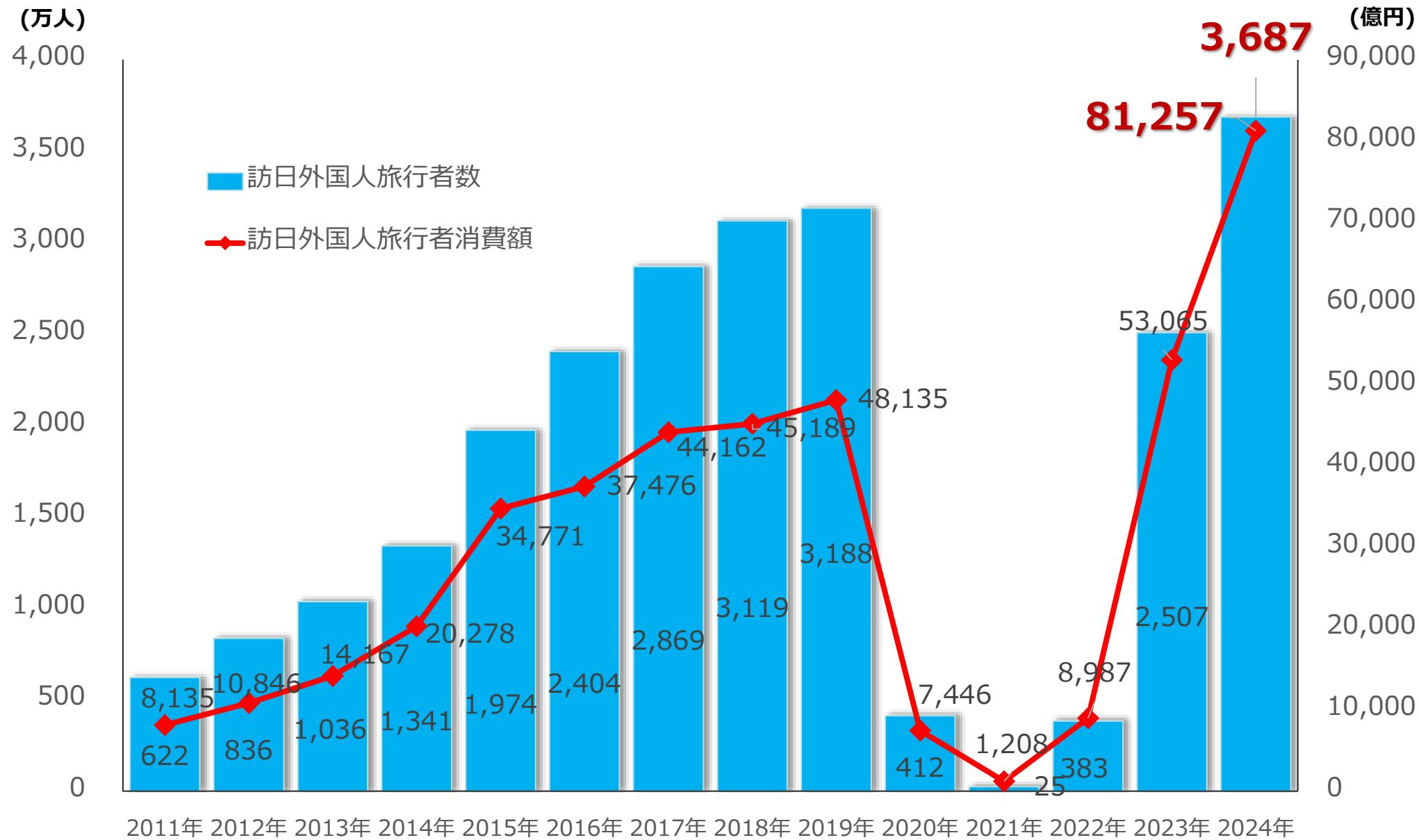


2019年



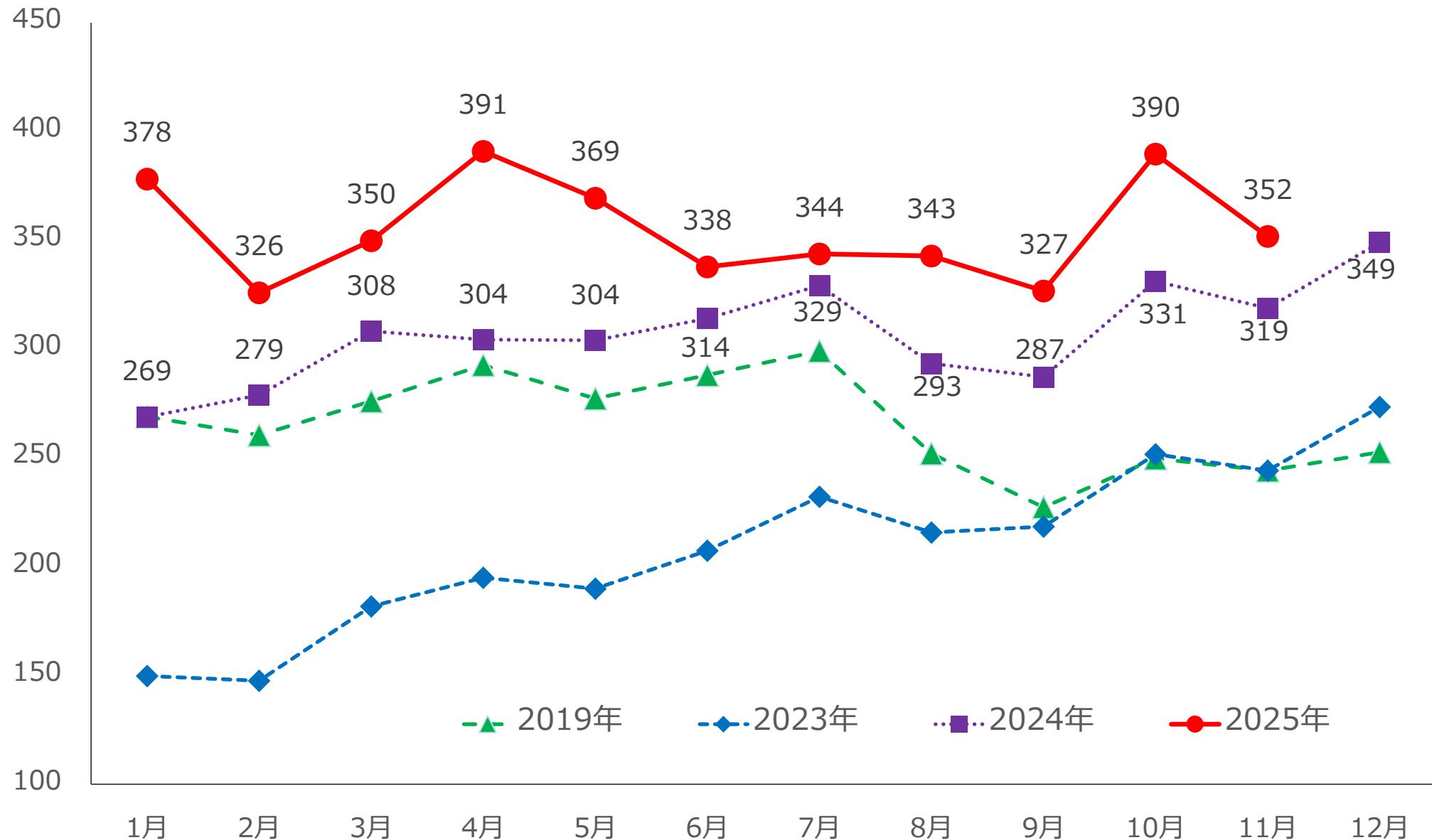
2024年

訪日外国人旅行者数と旅行消費額の推移

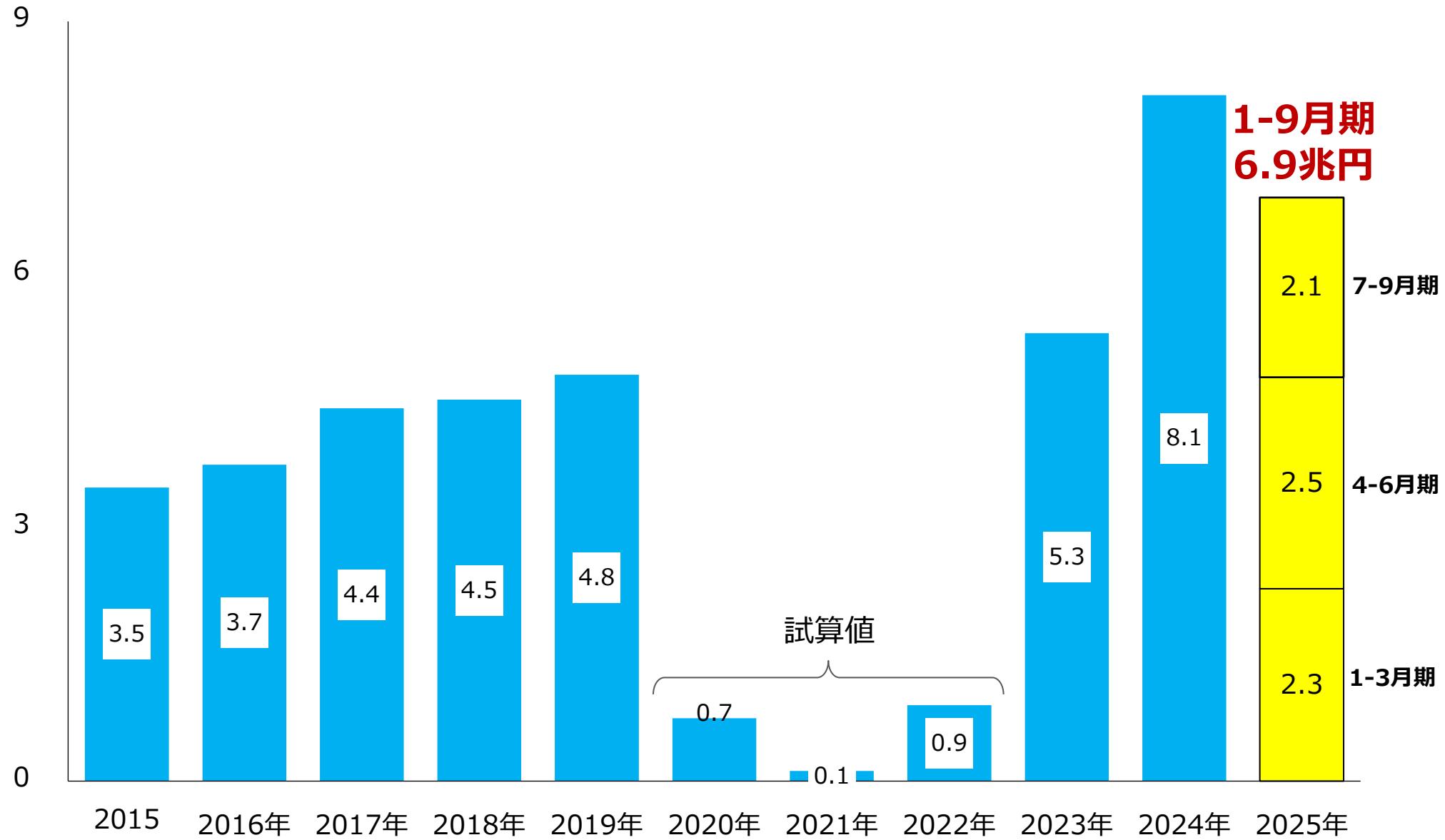


(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局(JNTO)資料より作成

訪日外国人旅行者数の月別の推移 (万人)

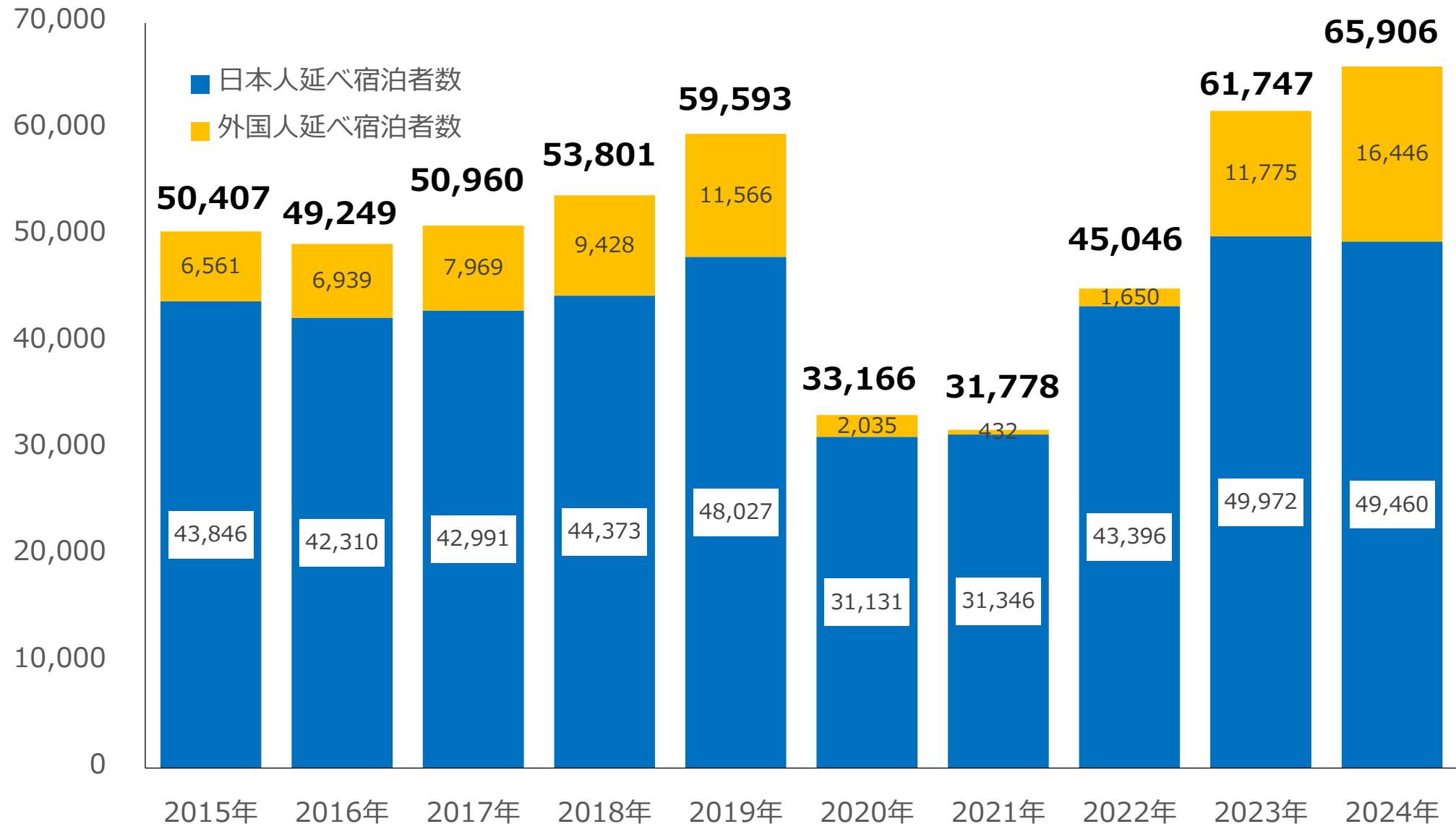


訪日外国人旅行者消費額の推移 (兆円)



(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」及び「インバウンド消費動向調査」(2025年1-9月期は速報値)より作成

延べ宿泊者数の推移 (万泊)



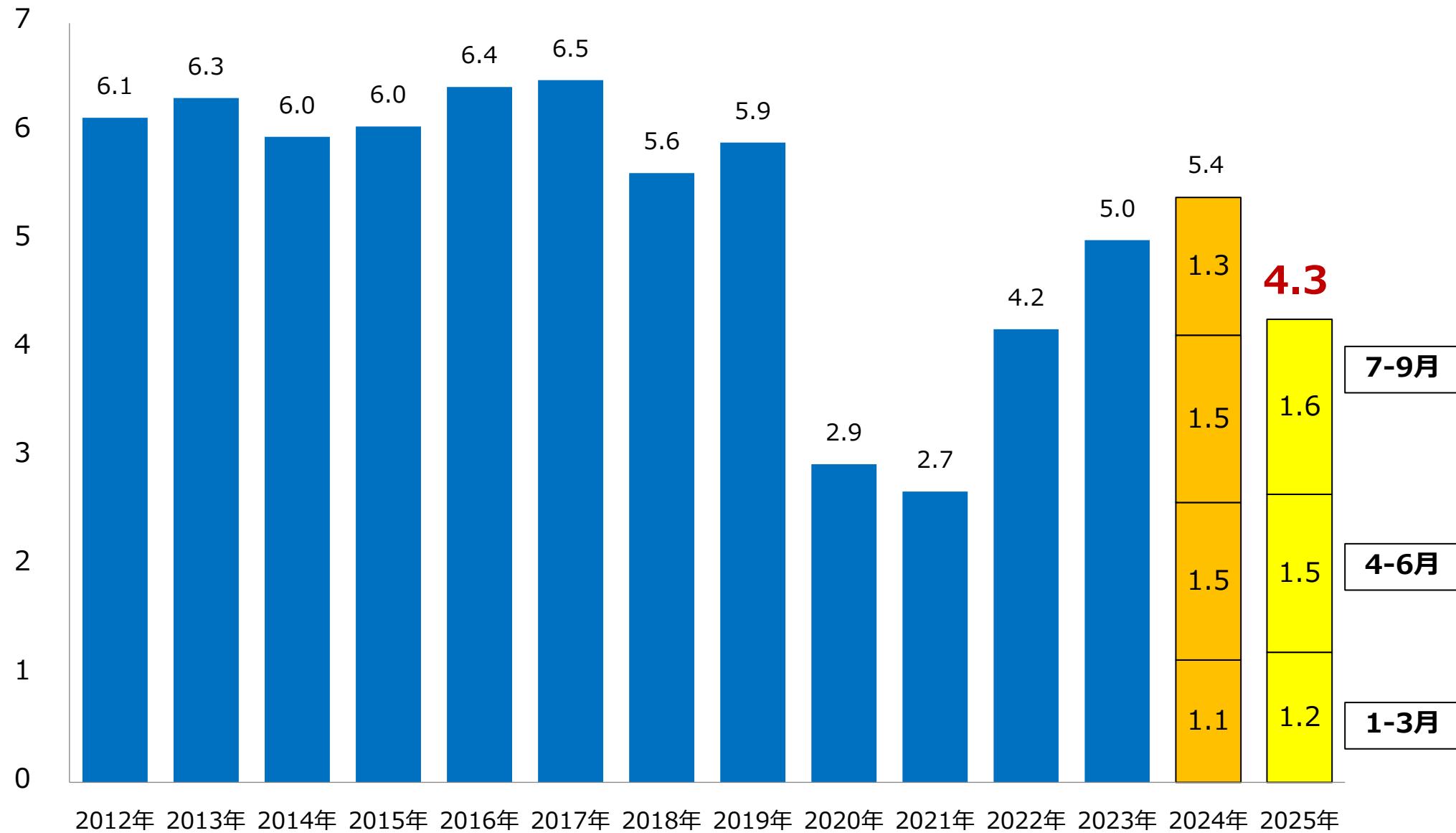
(出典) 観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

延べ宿泊者数における外国人の割合 (%)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
全 国	13.0%	14.1%	15.6%	17.5%	19.4%	6.1%	1.4%	3.7%	19.1%	25.0%
北海道	17.3%	19.5%	21.7%	23.6%	23.8%	9.6%	0.3%	2.9%	18.0%	23.1%
埼玉県	3.7%	3.8%	4.8%	4.7%	4.0%	1.1%	0.8%	1.2%	3.2%	4.1%
千葉県	15.5%	15.3%	14.9%	16.1%	16.4%	8.1%	4.2%	3.7%	11.6%	15.6%
東京都	29.7%	31.4%	33.0%	35.1%	37.2%	13.2%	4.0%	11.5%	43.9%	51.5%
神奈川県	11.3%	11.5%	11.3%	12.0%	13.6%	3.9%	1.6%	2.3%	11.4%	16.9%
京都府	25.1%	26.1%	29.4%	30.6%	39.1%	12.3%	0.9%	6.7%	37.8%	49.5%
大阪府	29.5%	32.3%	35.1%	37.9%	37.8%	16.4%	1.8%	7.0%	37.0%	44.2%
沖縄県	18.4%	18.7%	21.3%	23.1%	23.6%	7.7%	2.1%	3.2%	13.6%	22.2%

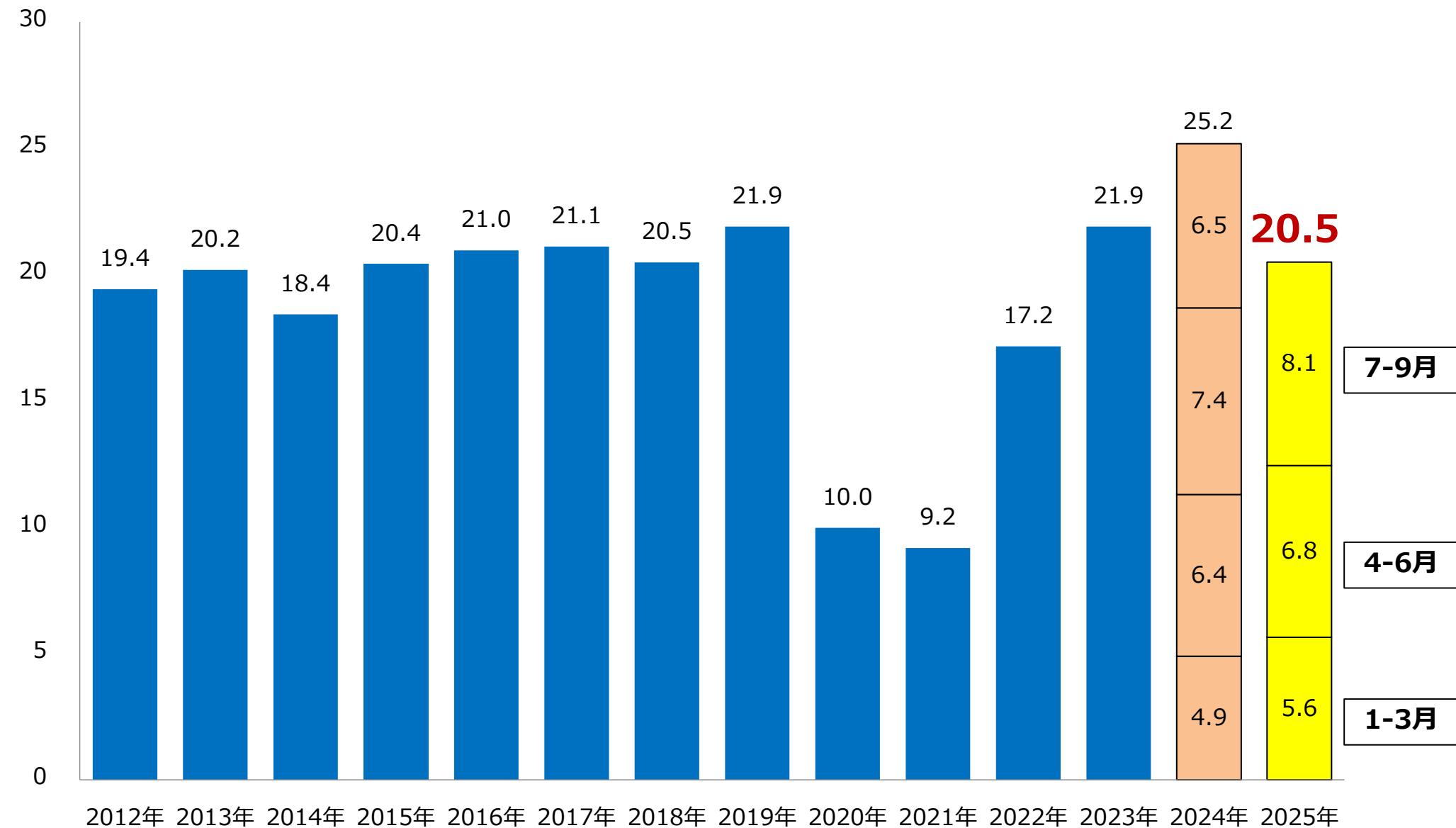
(出典) 観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

日本人国内延べ旅行者数の推移 (億人)



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」（2025年1～9月期は速報値）

日本人国内旅行消費額の推移 (兆円)

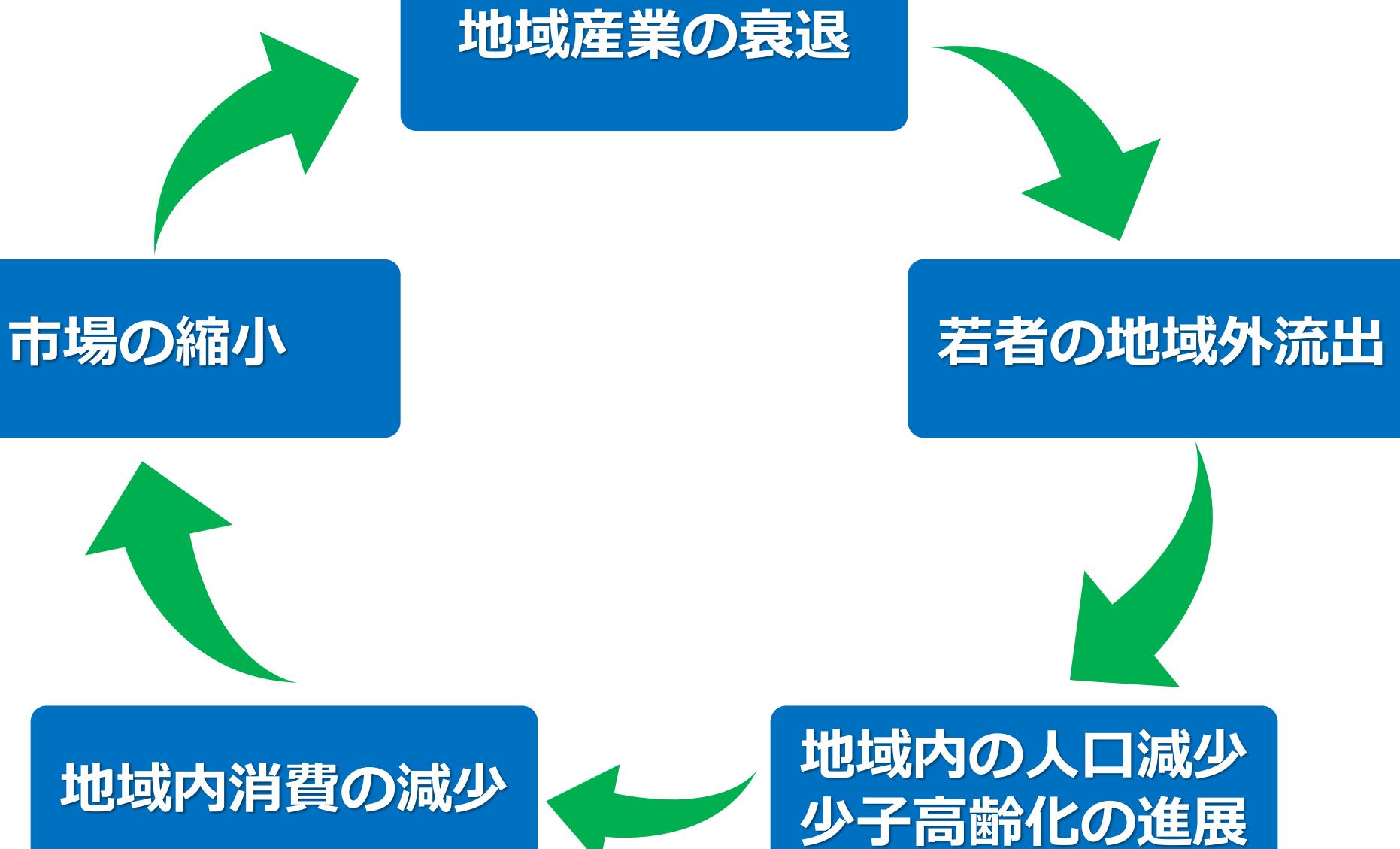


出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」（2025年1～9月期は速報値）

本日の内容

1. はじめに
2. 日本の観光の現状
- 3. 海業を通して持続可能な地域づくりへ**
4. まずはできることから
5. 最後に

経済衰退のループ



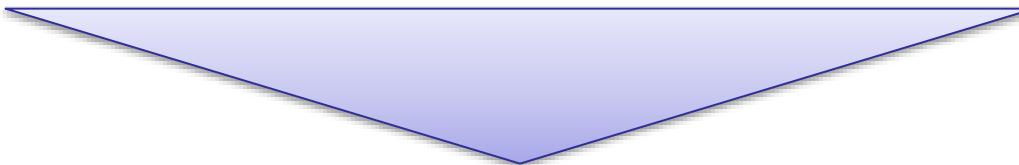
経済衰退のループ



- 公共交通のサービス低下、買物難民
- 地域コミュニティの弱体化
- 医療・介護・福祉環境の悪化
- 教育水準の低下

持続可能な観光とは

- 「訪問客、産業、環境、受入地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光」(国連世界観光機関(UNWTO))
- 持続可能な観光を実現するためには、「**環境**」「**社会文化**」「**経済**」の3つの領域間で適切な均衡（バランス）がとれていなければならぬ



「3つの観点」と
「3つの取り組み」が重要

持続可能な観光とは

3つの視点

1. 環境資源の活用の最適化
2. ホストコミュニティの社会文化的真正性の尊重
3. 長期的な経済活動の保証

3つの取り組み

1. 関連するすべてのステークホルダーの参画
2. (幅広い参加と確実な合意形成のための) 強い政治的リーダーシップ
3. 観光の影響をモニタリングする継続的な取り組み（必要に応じた予防的・調整的措置の導入）

観光は経済・社会・環境問題の有効な解決ツール

観光を「持続可能な地域経営」に活用

「持続可能な地域経営」の要件を具体化できる

観光の切り口・活用のポイント

- ① 経済面だけでなく、社会・文化、環境といった地域のあらゆる側面に影響
- ② 地域の多くの産業が関係し、また、住民を含む多様な人間が関心を持ち(影響を受け)取り組みに参加する
- ③ 計画策定・運用には首長のリーダーシップと部署横断的推進体制が必要
- ④ 雇用の受け皿となり、地域経済を下支えする役割を担える

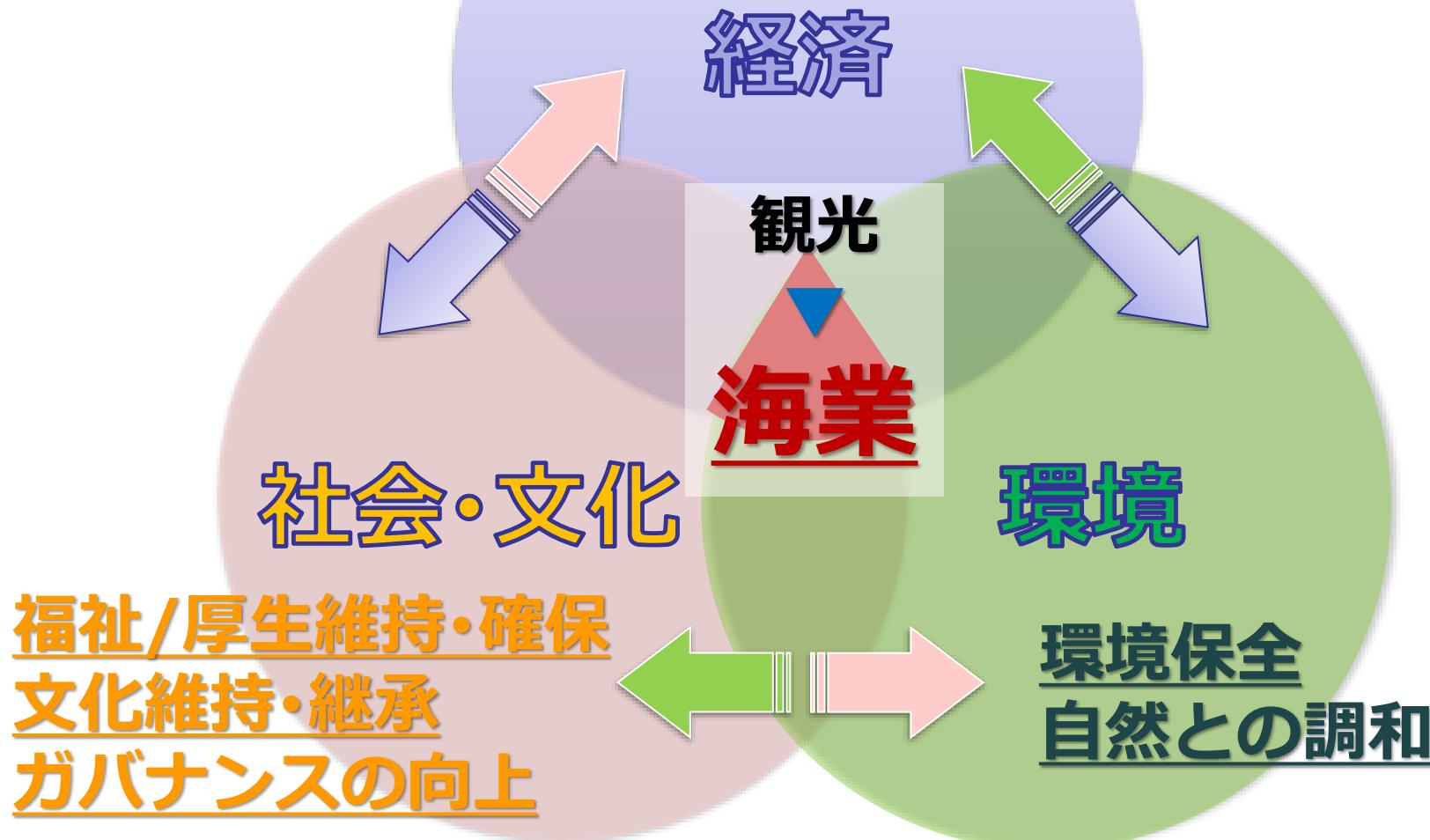


持続可能な地域経営の要件

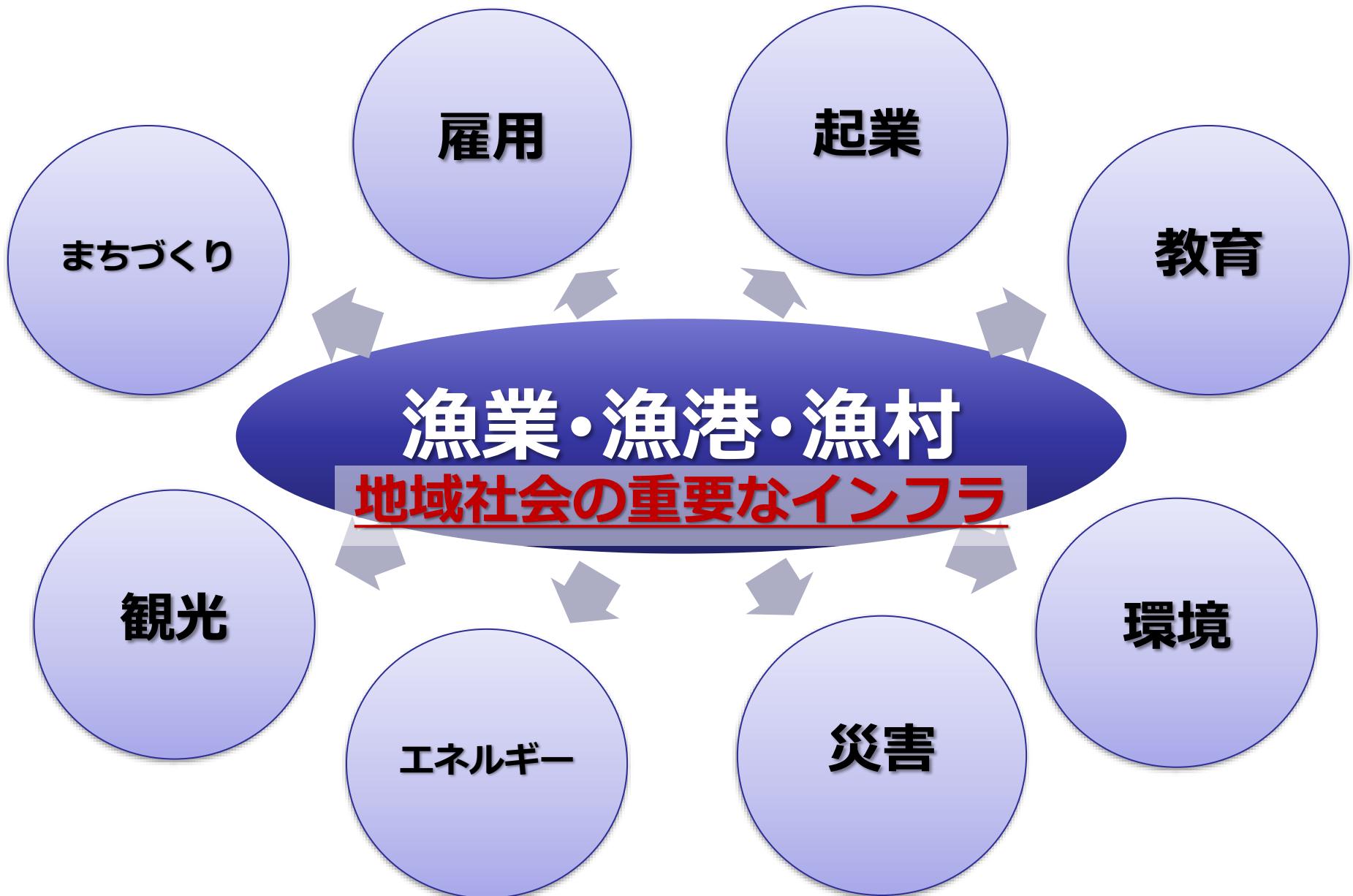
- 地域すべての面を対象とする
- 地域のそれぞれの側面のステークホルダーの参加を促進する
- 部署横断的な推進体制づくり
- リスク対応の備え

海業とは地域課題の解決ツール

産業振興、雇用確保・創出
地域内循環



漁業とは地域課題の解決ツール



海業とは地域課題の解決ツール

漁業・漁村・漁港はこれまで培ってきた
歴史・文化・生業・インフラの集合体

観光 環境
エネルギー 災害
海業で地域コミュニティを再生

本日の内容

1. はじめに
2. 日本の観光の現状
3. 海業を通して持続可能な地域づくりへ
- 4. まずはできることから**
5. 最後に

地域外に出ていくお金を減らす（地消地産）

地消地産とは

1. お金を地域の外から稼ぐこと（移出力）
2. お金を地域内で循環させ、地域外への流出を防ぐこと（循環力）

「地産地消」が、地域で生産したものを地域内で消費するという「生産」に起点をおいた考え方に対して、

「**地消地産**」は、「消費」を起点として、地域で消費されるものを生産するという考え方。

海業で地域課題解決の新しい社会創造へ

【新たなガバナンス型】

海業は大小さまざまな地域プロジェクトの集合体

イベント、関係人口、体験、コト・モノ・ヒト・トキ消費…

地域生活の中でイベントが日常化。地域は、イベント型経済に!?



既存ビジネスを軸にした取り組みが重要

足し算(ちょいたし)の発想が事業化・商品開発の出発点



地域内の産業連関を考える

漁業を核に地域の「稼ぐ力」を育んでいく

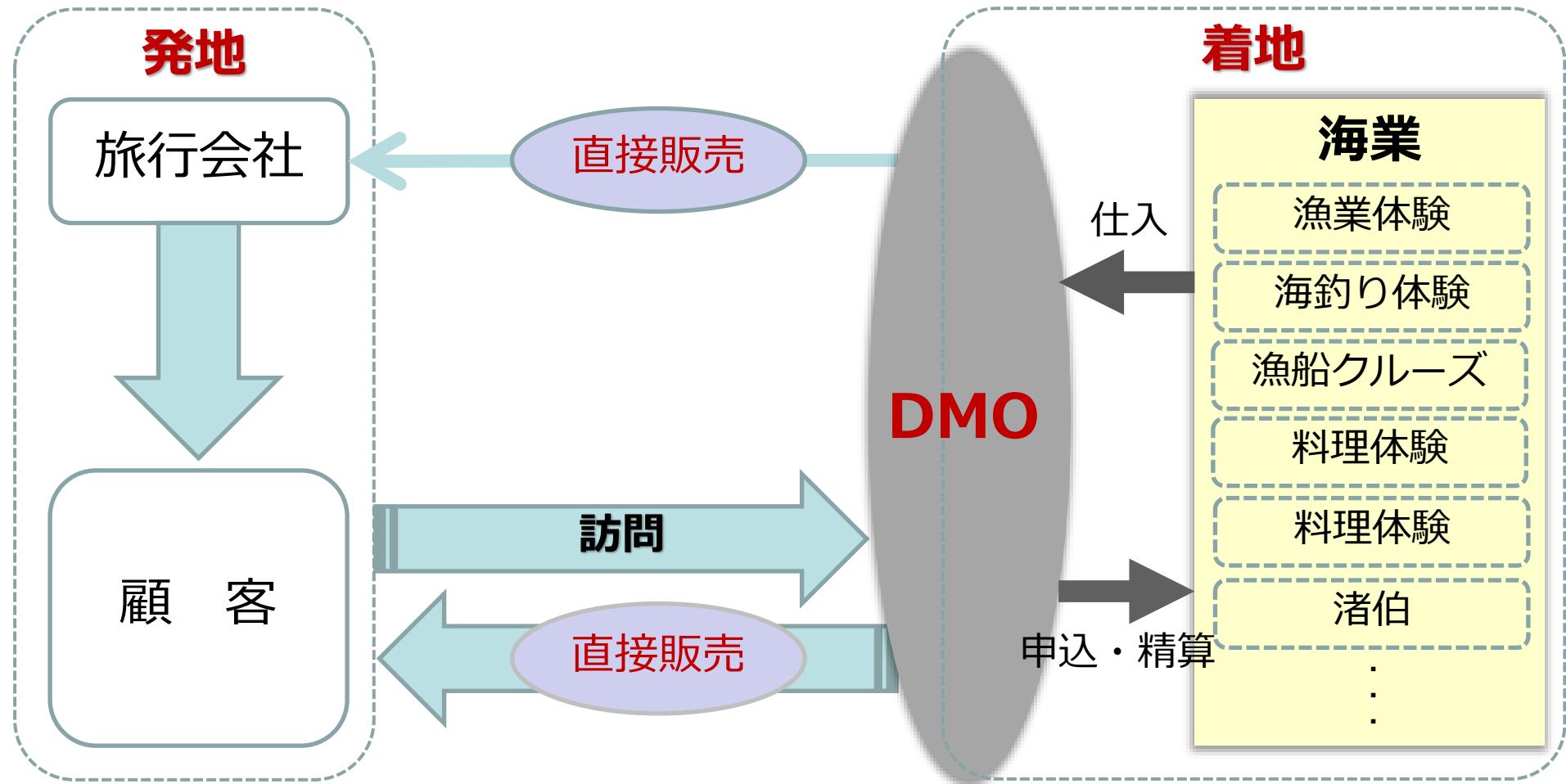
- ▶ 海業を推進する上で、海業による地域への経済効果、関連産業への経済効果を図るために仕組みを創造する

観光客の消費	交通	宿泊	食事	活動	土産	観光施設	ガイド
①外部からの売上							
②事業者の利益							
③地域に配分した金額 (仕入原価や人件費等)							

$$\textcircled{1} - (\textcircled{2} + \textcircled{3}) = \text{リンクエージ} \text{ (地域外に流出した仕入原価や人件費等)}$$

事業を推進していくための中間組織の役割

DMOが顧客と地域の事業者をつなぐ



本日の内容

1. はじめに
2. 日本の観光の現状
3. 海業を通して持続可能な地域づくりへ
4. まずはできることから
5. 最後に

未来創造の志向への転換が必要

バックキャスティング：未来から考える

バックキャスティング

- 未来の理想的な姿、ゴール像を描き、その実現に向けてやるべき活動を大胆に考える未来志向のアプローチ

「10年後の地域の理想の姿は？」

- ゼロエミッションの環境共生型リゾート
- 地元漁師、地元農家が供給する地消地産レストラン
- 地元ガイドによる海洋生活体験

フォアキャスティング

- 現状分析から課題を抽出し、課題を改善した結果として実現可能なゴール像や未来の姿を描く未来予測のアプローチ

「地域の現状の課題、改善策は？」

- 少しでも売上を増やしたい
- 施設や企業を誘致したい
- 大規模イベントを実施して多くの人を集めたい
- 大規模施設にして早期に投資を回収したい

持続可能な地域経営

産業振興、雇用確保・創出

地域のすべての側面
を対象に総合的な課題解決
に取り組み続ける

地域内循環

なりたい姿

経済

海業

環境

社会・文化

福祉/厚生維持・確保

文化維持・継承

ガバナンスの向上

環境保全
自然との調和



これからの地域づくりで大切なのは
「生業」が元気になること